

産学官で連携した食環境整備 モデル事業 報告書

概要版

働く世代の生活習慣病対策～産学官で連携した食環境整備～

本報告書は、地域食生活対策推進協議会で協議・実施した
「産学官で連携した食環境整備モデル事業」の取組をまとめたものです

令和7年3月
神奈川県平塚保健福祉事務所秦野センター
保健福祉サービス連携調整会議
地域食生活対策推進協議会 作成

目的

働く世代の健康保持増進・生活習慣病予防

背景

（企業側）

- ◆ 企業によって、安全衛生対策の内容に違いがある
- ◆ 従業員の一人ひとりが健康でいられると、企業としても活力・生産力が向上し、業績アップにつながる
- ◆ 近年、各社のESG評価※や株価にもよい影響がある

（行政側）

- ◆ 20～60歳代男性には肥満等の健康課題が多く見られるが、働きかける場が少ない
- ◆ 従業員の嗜好等の理由から、メニューや栄養量を改善しない食堂もあるため、支援が難しい

※ESG評価：Environment（環境）、Social（社会）、Governance（ガバナンス（企業統治））に関する評価のこと。

理念

- ◆ 本取組では、働く世代1人ひとりが健康的な食生活を送ることができる環境をつくる、充実させることを目指しています。
- ◆ そのための食環境とは、「健康につながる食事を食べられる環境」と「適切な栄養・健康情報を取得できる環境」の両者がそろっていることとして、産学官のメンバーで協議し、モデル事業を進めました。

各企業の活力・生産力・業績向上

働く世代の健康保持増進・生活習慣病予防

本取組で目指す食環境整備

働く世代1人ひとりが
健康的な食生活を送ることができる環境

健康につながる食事
を食べられる環境

働く人が食品に
アクセスする機会

適切な栄養・健康情報
を取得できる環境

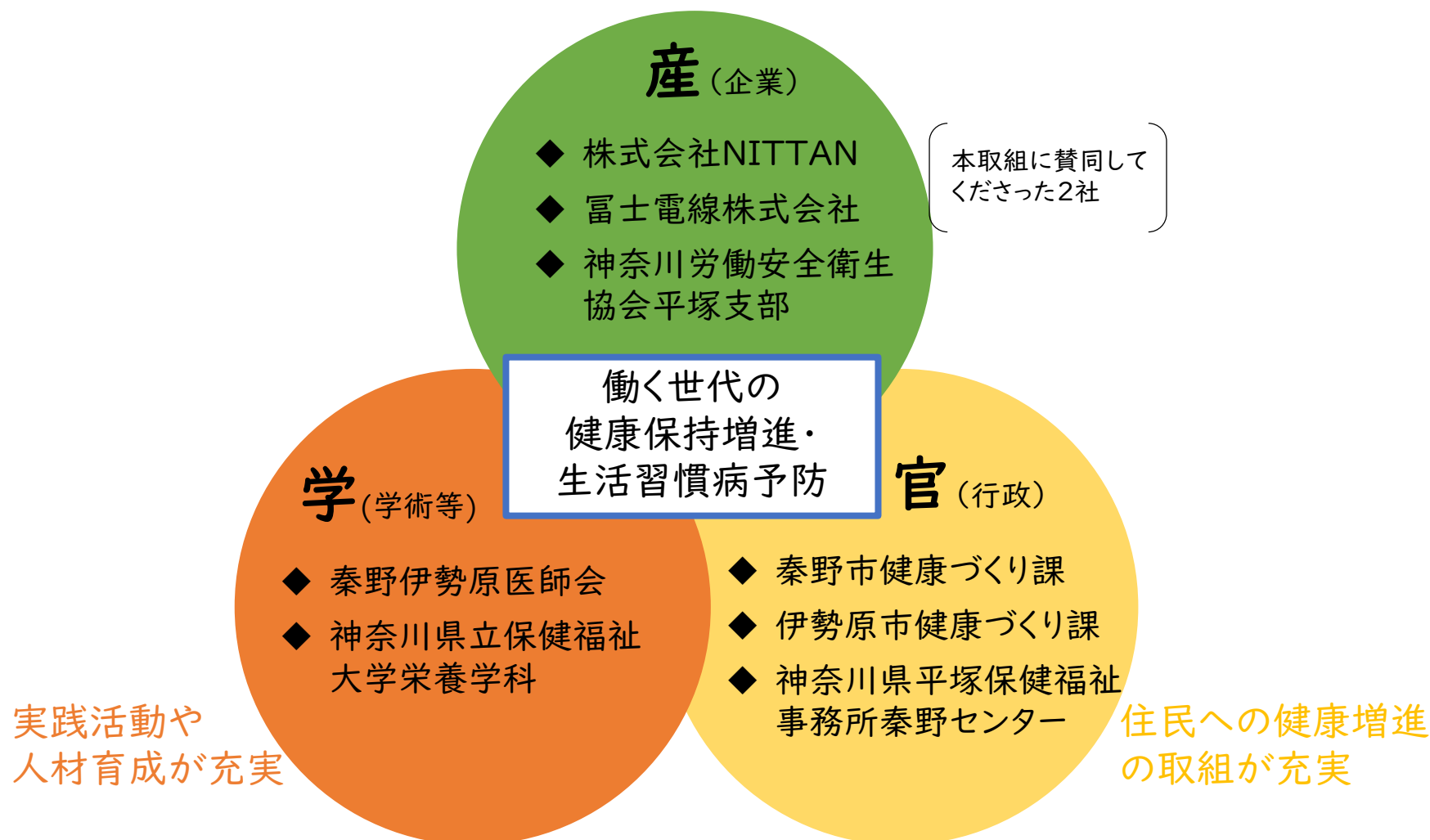
働く人が情報に
アクセスする機会

実施体制

産学官、それぞれの役割を果たしながら、
同じ目的に向かって取り組む

モデル事業へ

各企業の安全衛生対策が充実



モデル事業の概要

約1年6か月間の 食環境整備

- ✓ 各企業との調整
対面での打合せ 12回
(企業・給食会社・大学・市・当センター)
- ✓ 各企業に合わせた
テーマによる取組
- ✓ 多方面からの評価
企業(総務) : 健康診断結果
給食会社 : 食堂調査(食数等)
大学 : 意識調査
当センター : 食環境スコア

各種支援ツールの 作成・活用

- ✓ 食環境見える化ツール
 - ①食環境スコア
 - ②給食施設栄養管理報告書のまとめ
- ✓ 各種栄養教育媒体
 - 動画・講演スライド
 - 卓上メモ
 - ポスター

各企業の活力・生産力・業績向上

株価・ESG評価上昇

働く世代の健康保持増進・生活習慣病予防

産学官連携による
働く世代の食環境の整備・充実

(働く世代1人ひとりが 健康的な食生活を送ることができる環境)

健康につながる食事を食べられる環境
働く人が食品にアクセスする機会

(取り組めたこと)

- 社員食堂
 - ・提供する定食の健康化
 - ・雑穀米の提供
 - ・小鉢への野菜料理 回数増加
 - ・減塩食品の提供
 - ・こっそり適塩みそ汁の提供
 - ・従業員が考えた献立の提供

適切な栄養・健康情報を取得できる環境
働く人が情報にアクセスする機会

(取り組めたこと)

- 動画上映
- 講話の実施
- 昼めしを考える会の開催
- 体験・試食・測定イベントの実施
- 卓上メモの設置
- 献立へのマーク・ポップ表示
- ポスター掲示
- 自動販売機近くに砂糖量の表示
- 習慣化アプリの紹介

産学官で連携した食環境整備モデル事業 取組結果ポイント

- ◆ 「栄養情報の提供・教育」と「食事内容の改善・充実」を同時に行うことで、健康意識や食事選択に変化が見られた。

働く人が

情報にアクセスする機会

食事にアクセスする機会

を 同時によくする



健康意識の変化

食事選択の変化



モデル事業の詳細は
報告書（全体版）をご覧ください

第1章 はじめに

第2章 モデル事業の概要

第3章 株式会社NITTAN における食環境整備取組結果

第4章 富士電線株式会社における食環境整備取組結果

第5章 今回作成したツール・栄養教育用媒体の紹介

秦野センターウェブページ

従業員が健康になる 食環境整備



URL:

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx4/eiyou2025.html>